

第6回「遠山郷いい川づくり」会議

～人・自然・文化のハーモニー！
奏でつづける遠山川～



- ▶「信州のいい川づくり」モデル事業
 - ▶「遠山郷いい川づくり」会議
 - ▶整備計画の目標(基本理念)
- ▶基本計画策定にあたってのポイント
 - ▶基本計画について
 - ▶ご質問、ご意見
- ▶ハーモニーを奏でつづけるために

平成25年3月21日(木)
飯田市南信濃自治振興センター

「信州のいい川づくり」モデル事業

【趣 旨】

◇ 多自然川づくり ◇

◇ 地域の特徴 ◇

「信州のいい川づくり」モデル事業

【趣 旨】

- ◇最新の多自然川づくりの考え方を取り入れた
- ◇地域の特色を生かした河川改修

■最新の多自然川づくりとは・・・

現在の河岸やみお筋が良好な環境を形成している場合には、現況の平面形や横断形にならい、それをできるだけ保全し改修後の流速をあまり増加させないこと。河岸・水際部の計画・設計にあたっては、治水機能の確保と共に、河岸・水際部が本来有する河川景観及び自然環境面での機能が十分発揮されるように行うこと。

■地域の特色を生かした河川改修とは・・・

河川は、過去、現在、将来にわたり現に存在し続けるものであり、いわゆる河川管理者のみが整備、維持管理を行うのみではなく、「川づくり」について地域住民が協働・共有し、将来的な利用や維持管理を考えた上で、それぞれの地域に適した河川整備を行うこと。

「遠山郷いい川づくり」会議

「遠山郷いい川づくり」会議

- ★委員19名 アドバイザー5名 で構成
- ★全6回の会議を開催・・・・・・・・
- ★情報収集、アイデア発想、意見、提案・

「信州のいい川づくり」検討委員会

- ★チームデザイン体制による検討委員会
- ★下伊那南部、飯田、県庁の職員16名

「遠山郷いい川づくり」会議

【趣 旨】

「信州のいい川づくり」モデル事業の実施にあたり、「地域の特色を生かした川づくり」「多自然川づくり」の観点から、川に関する情報、意見、発想、利活用等について忌憚のない意見交換を通じて得られた情報を、川づくりの「目標」や「計画策定」に活用するため、地域の多くの代表者から構成する「遠山郷いい川づくり」会議を設置します。

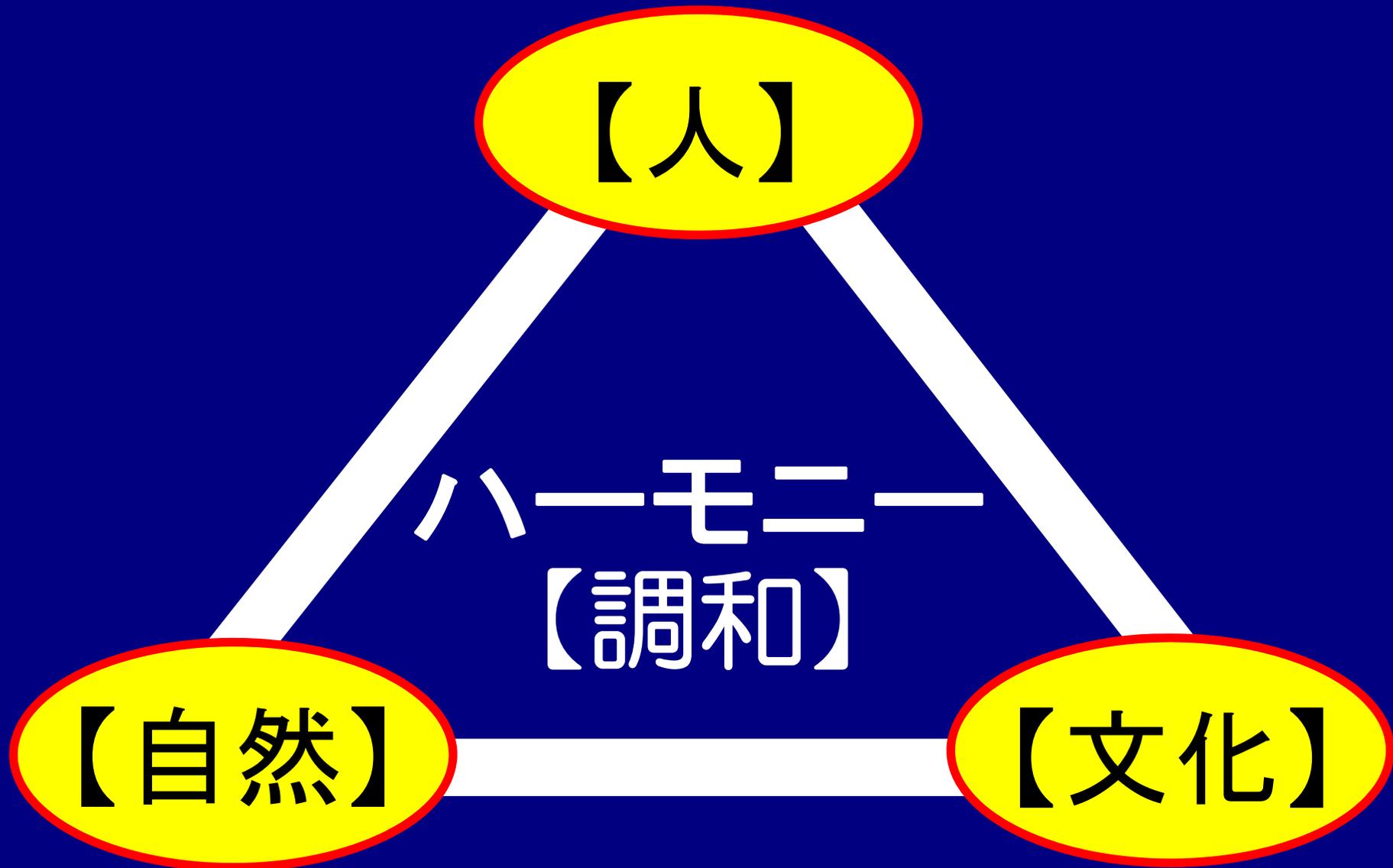
【位置づけ】

「遠山郷いい川づくり」会議 委員 19名 アドバイサー4名

- ・ 地域の情報（自然、歴史、文化、景観、利用、観光、動植物等）
- ・ 河川の情報（治水、利水、利用、施設、災害等）
- ・ 現在の河川の情報整理（河川スケッチ：良い所と悪い所、課題）
- ・ 目標設定のための意見交換
- ・ 目標達成のためのアイデア発想（具現化のイメージ）
- ・ アイデアの概略評価（整備イメージ）

いい川づくりの目標【基本理念】

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」



計画の目標【基本理念】

「人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川」

遠山川は、「人（地域住民やこの地を訪れる人）」、「自然（山里、周辺環境、河川環境）」、「文化（歴史、祭祀、街道、城下町）」の「ハーモニー（調和）」を奏でる（舞う）、中心的な存在である。

又、唯一無二（二つとない）、過去・現在・未来にわたりそこに存在しつづけるもの。

音楽にたとえ、五線譜＝遠山川、人・自然・文化等＝音符。音楽を奏でるイメージ。

災害等により、音符どれか一つかけてもハーモニーを奏でつづけることはできないという意味を含み、奏でつづけるとは、災害や重要施設を護るなど安全安心の意味を含む。



■言葉のもつ意味■

『人』…… 地域住民、この地を訪れる人、人の生活を守る

『自然』…… 山里、周辺環境、河川環境、動植物、景観、町並み

『文化』…… 歴史、祭祀、街道、城下町、産業、利水、利用、活動

『ハーモニー』・ 調和、一致、和合、協和、融合、和声

『奏でる』…… 演奏する、舞をまう、中心的存在、唯一無二

『つづける』…… 将来(未来)にわたって、これからもずっと、変わらず
(という意味から、防災、重要施設を護る、災害に強い、安全・安心、生活を守りつづける、を含む。)